高松市生涯学習市民意識アンケート調査
結果報告書

令和５年２月
高松市教育委員会

目　次

第１　調査概要 1

1　調査の目的 1

2　調査対象者 1

3　調査方法 1

4　調査期間 1

5　回収状況 1

6　年代別回答方法 1

第２　調査結果 2

1　回答者の属性 2

2　各設問の回答内容 4

（１）生涯学習の必要性と経験の有無 4

（２）生涯学習の学習内容 5

（３）生涯学習をしている理由 6

（４）生涯学習の活動場所について 7

（５）生涯学習に関する情報の入手方法 8

（６）生涯学習を通じての人付き合いの変化について 9

（７）新型コロナウイルス感染症の影響について 10

（８）地域や社会での生涯学習の活用状況 11

（９）地域や社会における生涯学習の活用の仕方 12

（１０）地域や社会において生涯学習を活かせていない理由 13

（１１）今後学習したい内容、活動したい内容 14

（１２）今後生涯学習を行いたい場所について 15

（１３）今後の生涯学習の方法 16

（１４）生涯学習を通して高松市や地域の活性化のために必要なこと 17

（１５）生涯学習を通して指導者を育成するために必要な取組 18

（１６）生涯学習の充実等のために必要なこと 19

（１７）家庭教育に関する施策に必要な取組 20

（１８）学校・家庭・地域の連携を推進するために必要な取組 21

（１９）社会人や就労希望者のスキルアップ等の推進に必要な取組 22

3　自由意見 23

第３　調査結果のまとめ 25

第１　調査概要

１　調査の目的

市民の生涯学習への取組の現状や要望等を把握し、生涯学習の推進に関する本市の課題や、役割等の認識・分析を行うことにより、今後における本市の生涯学習施策の企画・立案等の参考とするために実施しました。

２　調査対象者

令和４年１０月１日現在の住民基本台帳から無作為に抽出した満１８歳以上の市民１，０００人

３　調査方法

配布は郵送、回答はインターネット又は郵送による

４　調査期間

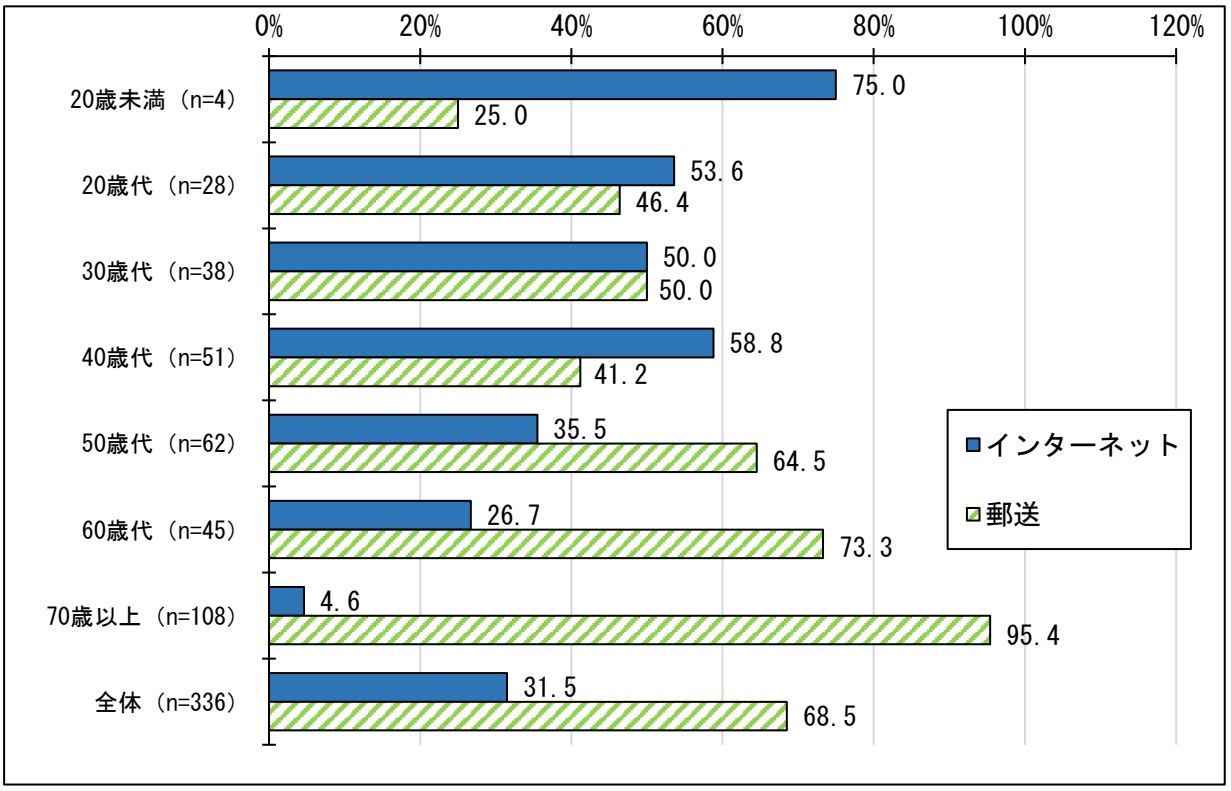
令和４年１１月１日～１１月２２日

５　回収状況

配布数（部）	回答方法	回答数（部）	回収率（%）
１，０００	インターネット	１０６	１０．６
	郵送	２３０	２３．０
	合計	３３６	３３．６（３１．９）

※（　）書きはＨ２８年度調査での回収率

６　年代別回答方法

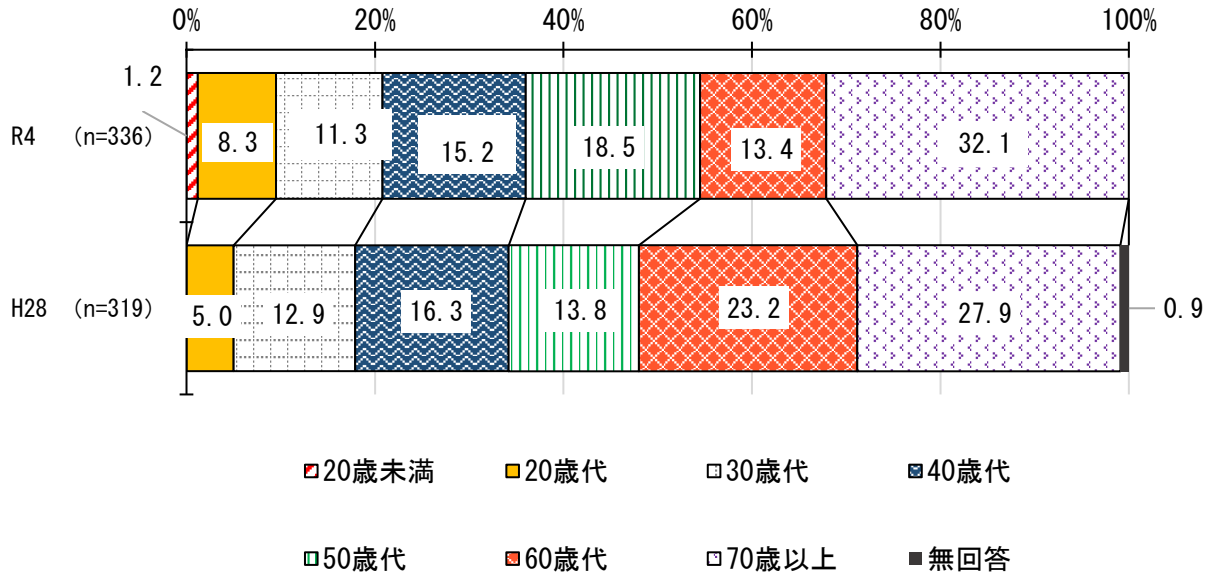


第２　調査結果

１　回答者の属性

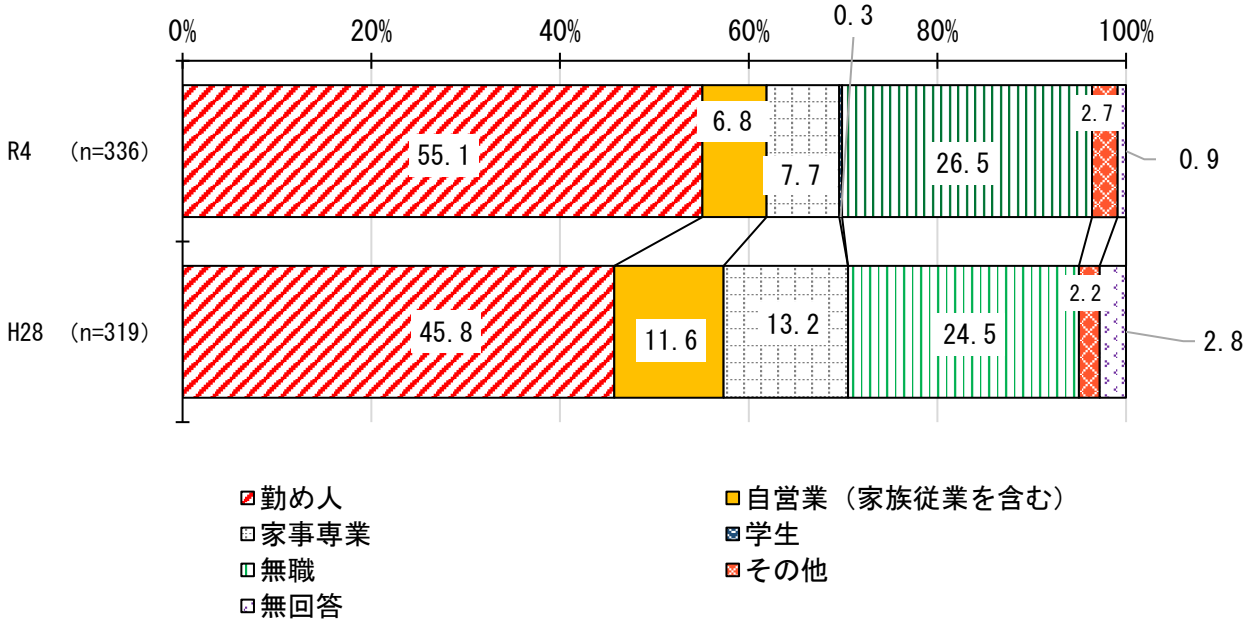
（１）年齢

「７０歳代」（３２．１%）が最も多く、次いで「５０歳代」（１８．５%）、「４０歳代」（１５．２%）の順となりました。



（２）職業

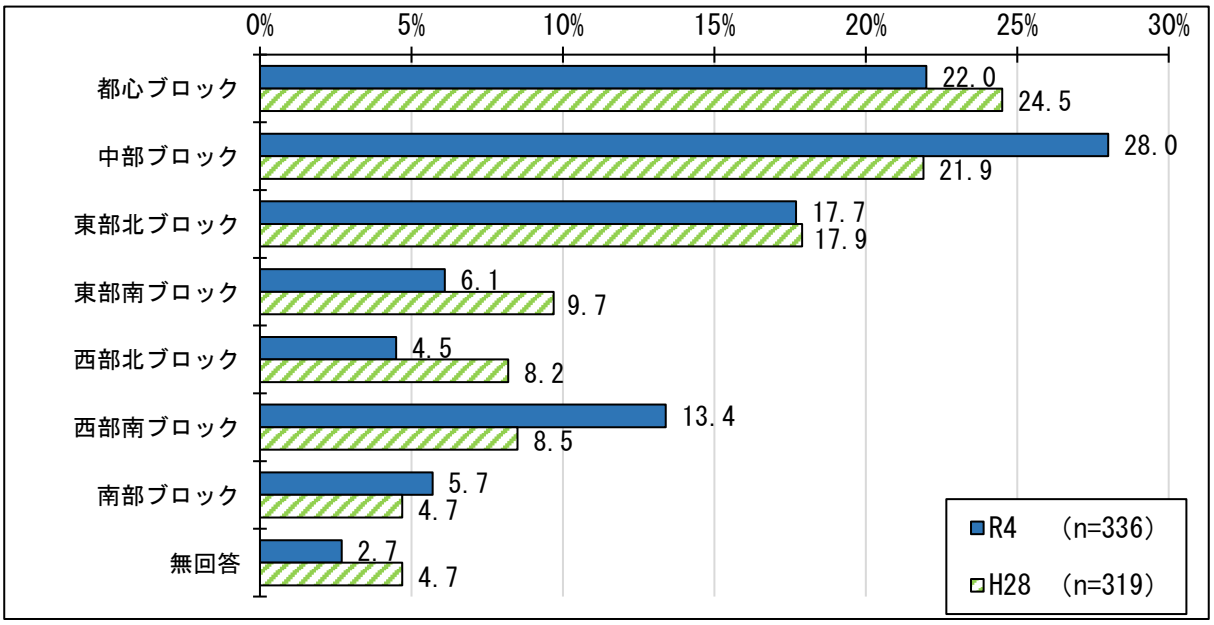
「勤め人」（５５．１%）が最も多く、次いで「無職」（２６．５%）、「家事専業」（７．７%）の順となりました。



（３）住所

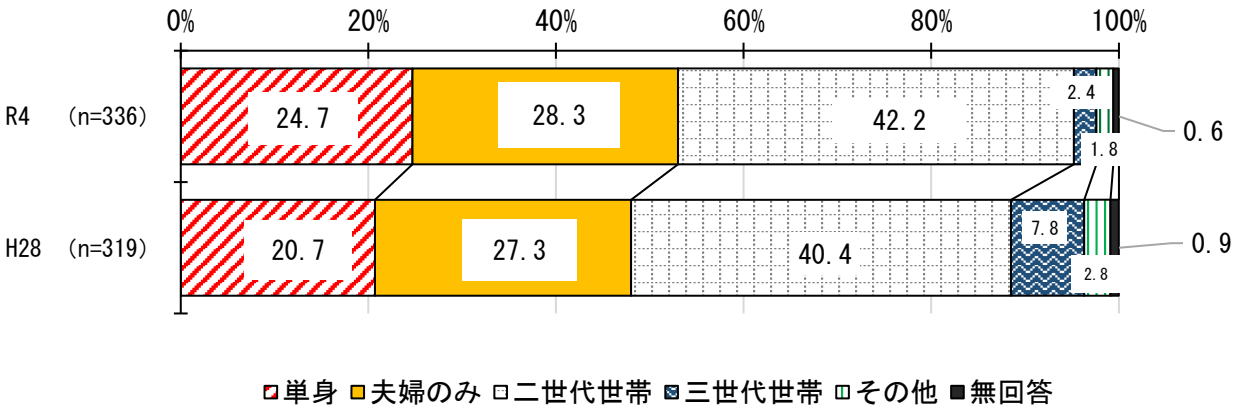
住所についての回答は、以下の通りとなりました。

ブロック名	該当地域コミュニティ協議会（連合自治会）
都心	松島、花園、築地、新塩屋町、四番丁、二番丁、日新、亀阜、栗林、女木、男木、木太
中部	鶴尾、太田、太田南、林、三谷、仏生山、一宮、多肥
東部北	牟礼、庵治、古高松、屋島
東部南	川島、十河、東植田、植田、前田、川添
西部北	香西、弦打、鬼無、下笠居
西部南	国分寺北部、国分寺南部、川岡、円座、檀紙
南部	塩江、大野、浅野、川東、香南



（４）世帯構成

「二世代世帯」（４２．２%）が最も多く、次いで「夫婦のみ」（２８．３%）、「単身」（２４．７%）の順となりました。



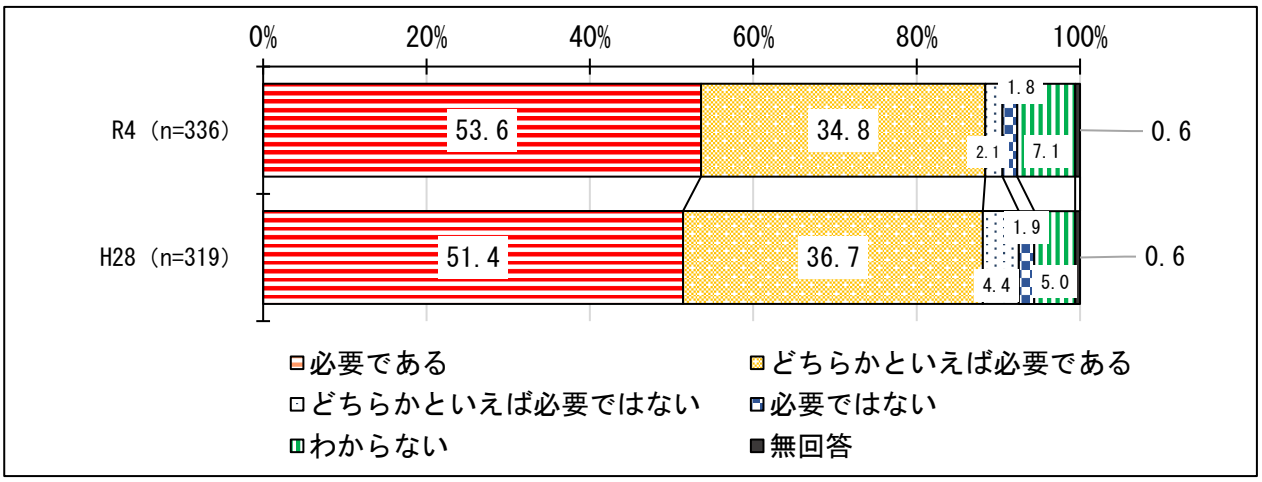
２　各設問の回答内容

（１）　生涯学習の必要性と経験の有無

問１　あなたにとって、生涯学習は必要だと思いますか。※１つ選択

「必要である」が５３．６％と過半数を占め、「どちらかといえば必要である」（３４．８％）と合わせると、約９割の人が『必要である』と回答しており、生涯学習の必要性に係る市民の意識はかなり高いといえます。

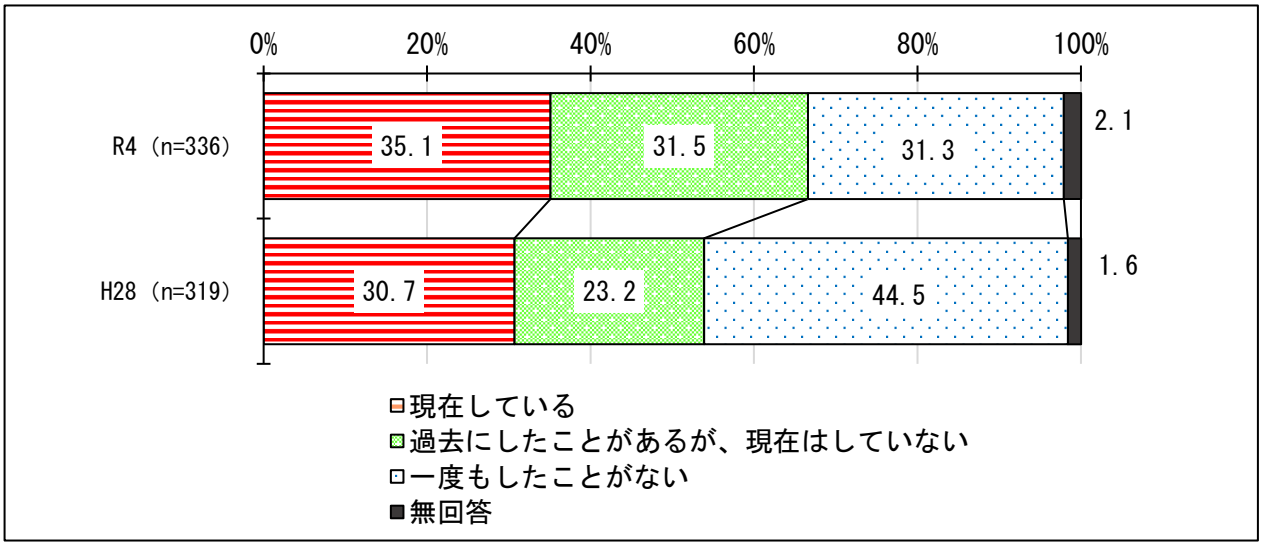
図１　生涯学習の必要性



問２　あなたは、これまでに生涯学習をしたことがありますか。※１つ選択

「現在している」が３５．１％で、前回調査から４．４ポイント増加している一方で、「過去にしたことはあるが、現在していない」も３１．５％で、前回調査から８．３ポイント増加しています。

図２　生涯学習の経験の有無



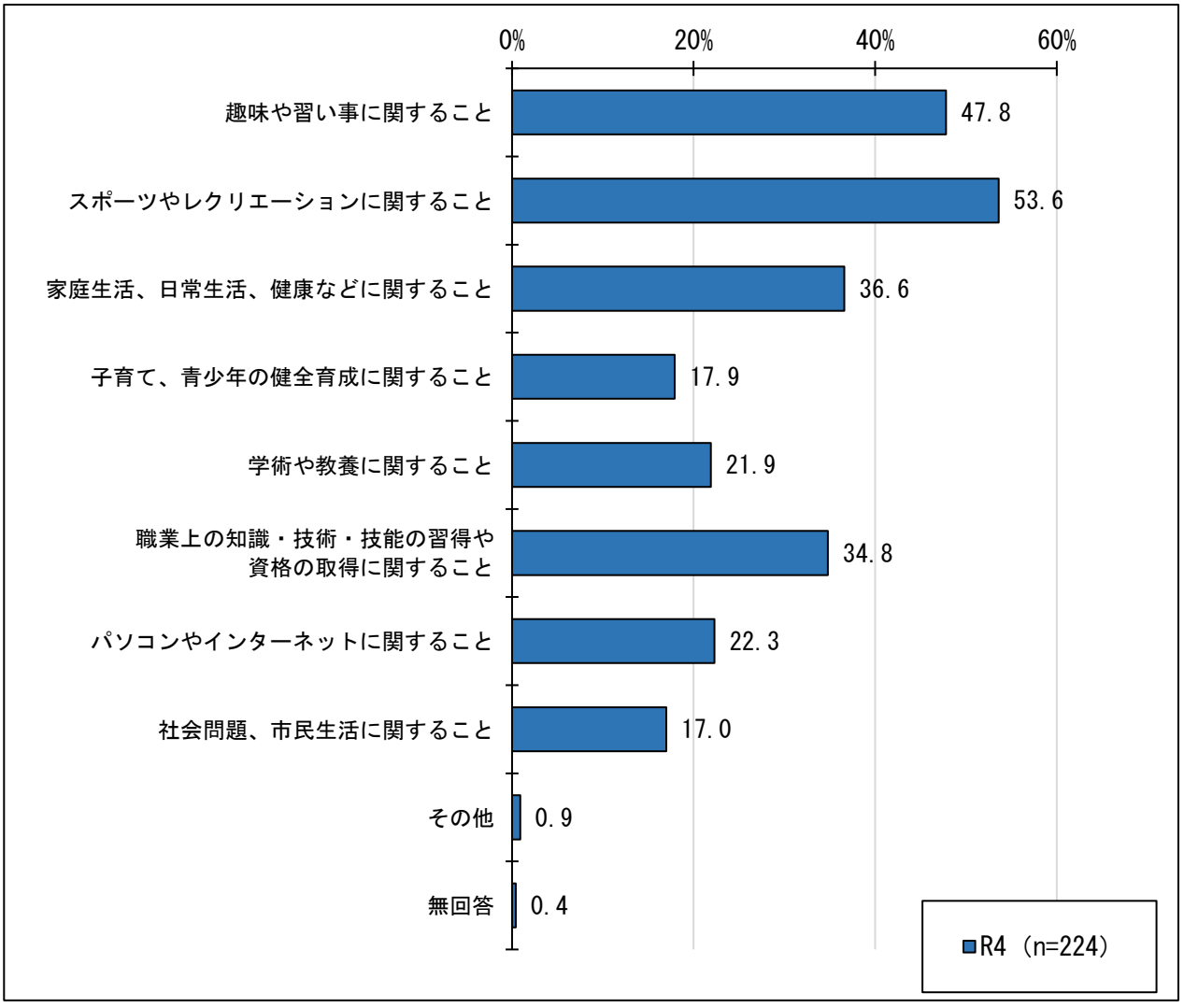
（２）　生涯学習の学習内容

※問３～問１１は、問２で「１.現在している」又は「２.過去にしたことがあるが、現在はしていない」を選択した方のみが回答しています。

問３　あなたは、どのような生涯学習をしていますか（していましたか）。
※該当するものすべて

「スポーツやレクリエーションに関すること」（５３．６%）が最も多く、次いで「趣味や習い事に関すること」（４７．８%）、「家庭生活、日常生活、健康などに関すること」（３６．６%）、「職業上の知識・技術・技能の習得や資格の取得に関すること」（３４．８%）の順となりました。

図３　生涯学習の活動の内容（複数回答）



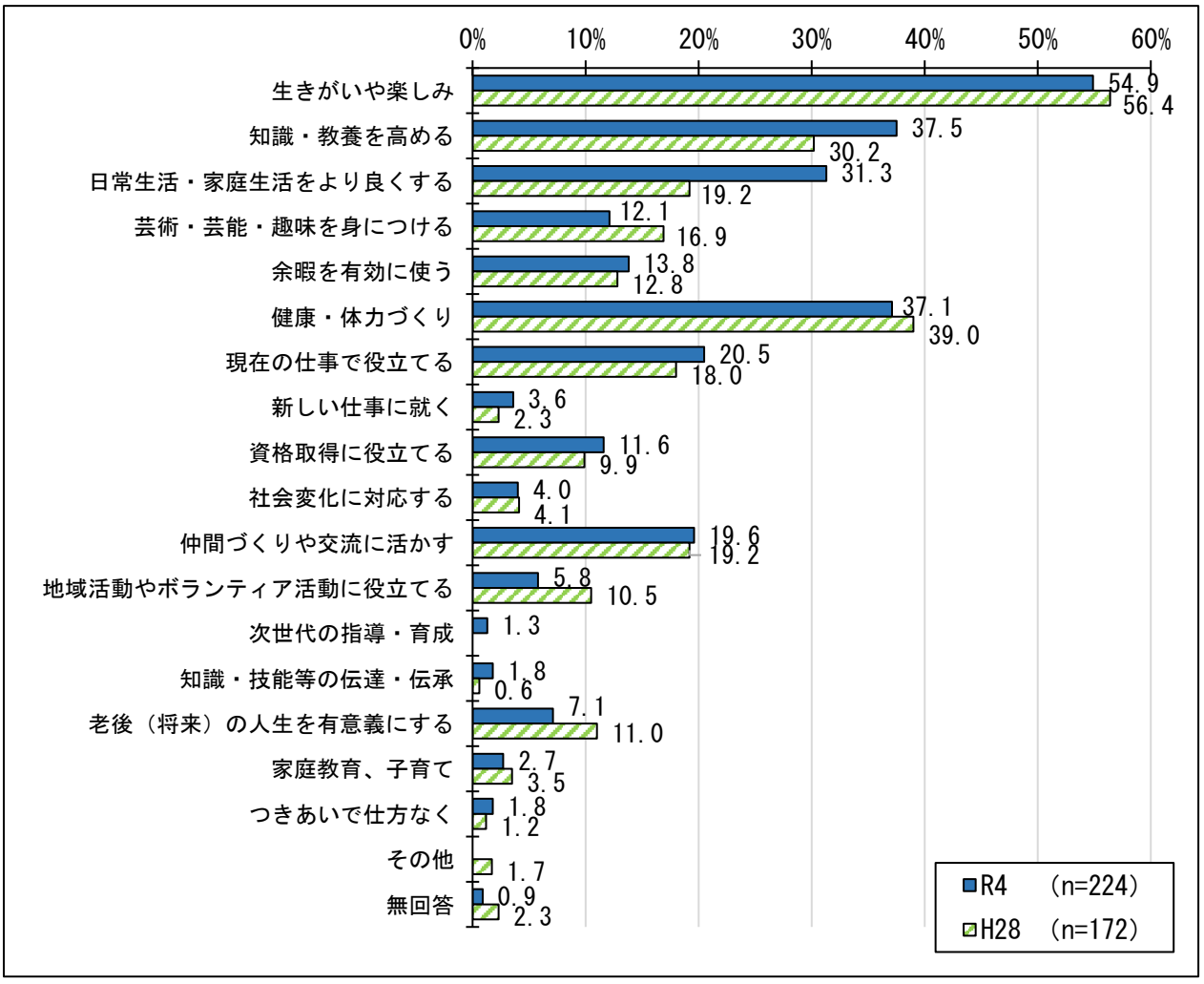
（３）　生涯学習をしている理由

問４　あなたが、生涯学習をしている（していた）主な理由は何ですか。※３つまで選択

「生きがいや楽しみ」（５４．９%）が最も多く、次いで「知識・教養を高める」（３７．５%）、「健康・体力づくり」（３７．１%）、「日常生活・家庭生活をより良くする」（３１．３%）、「現在の仕事で役立てる」（２０．５%）の順となりました。前回調査と比較して減少した項目はあるものの、「日常生活・家庭生活をより良くする」は、１２．１ポイント増加しており、自らの人生の充実・向上や個人の趣味等を生涯学習の目的とする人が大半を占めました。

一方、「地域活動やボランティア活動に役立てる」（５．８%）、「次世代の指導・育成」（１．３%）、「知識・技能等の伝達・伝承」（１．８%）など、まちづくりや地域貢献等を目的とする人は、依然として低くなっています。

図４　生涯学習をしている理由（複数回答）



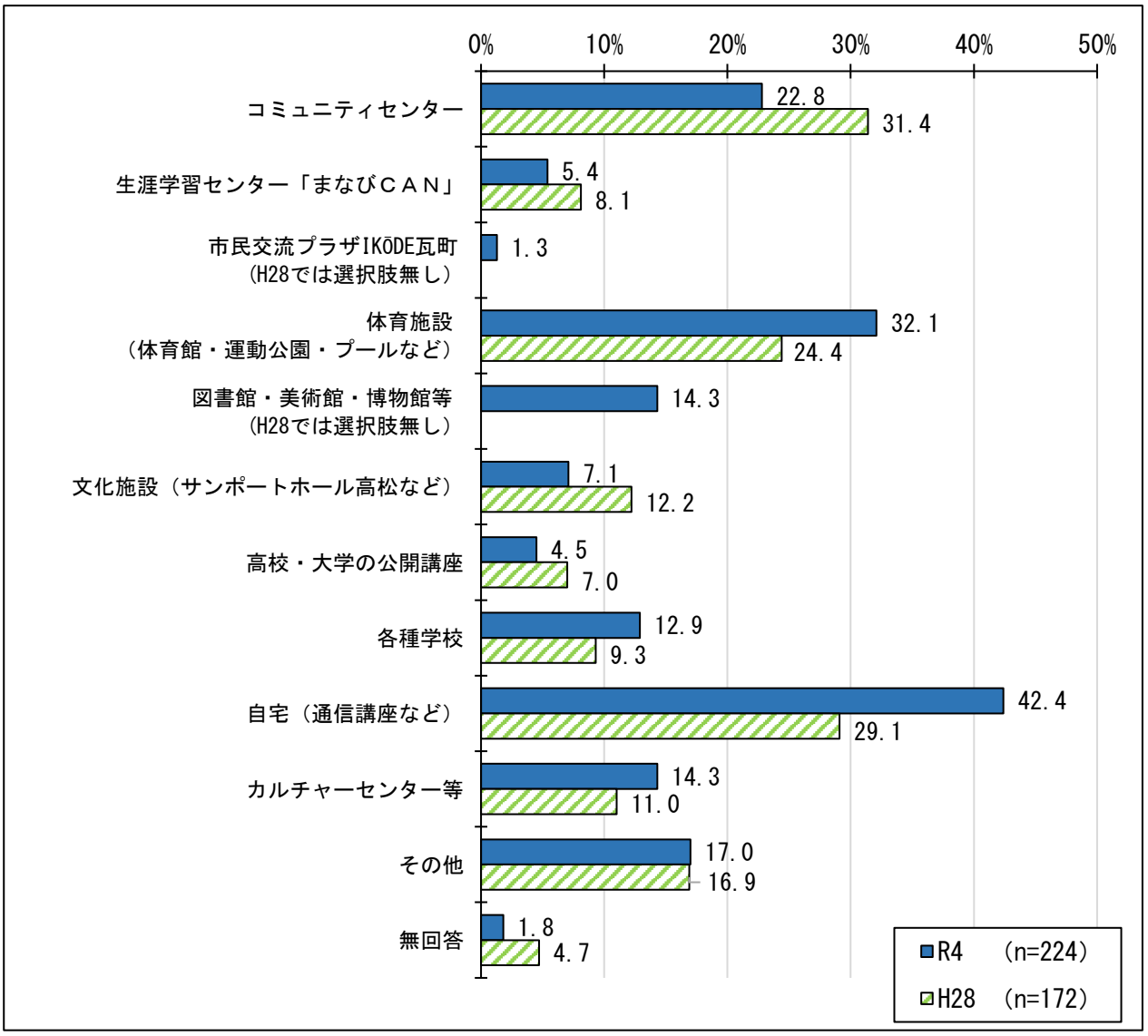
（４）　生涯学習の活動場所について

問５　あなたは、主にどこで生涯学習をしていますか（していましたか）。
※３つまで選択

「自宅（通信講座など）」（４２．４％）が最も多く、次いで「体育施設（体育館・運動公園・プール等）」（３２．１％）、「コミュニティセンター」（２２．８％）の順となりました。

前回調査と比較すると、「自宅（通信講座など）」が１３．３ポイント増加、「体育施設（体育館・運動公園・プール等）」が７．７ポイント増加している一方、「コミュニティセンター」が８．６ポイント減少しています。

図５　生涯学習の活動場所（複数回答）

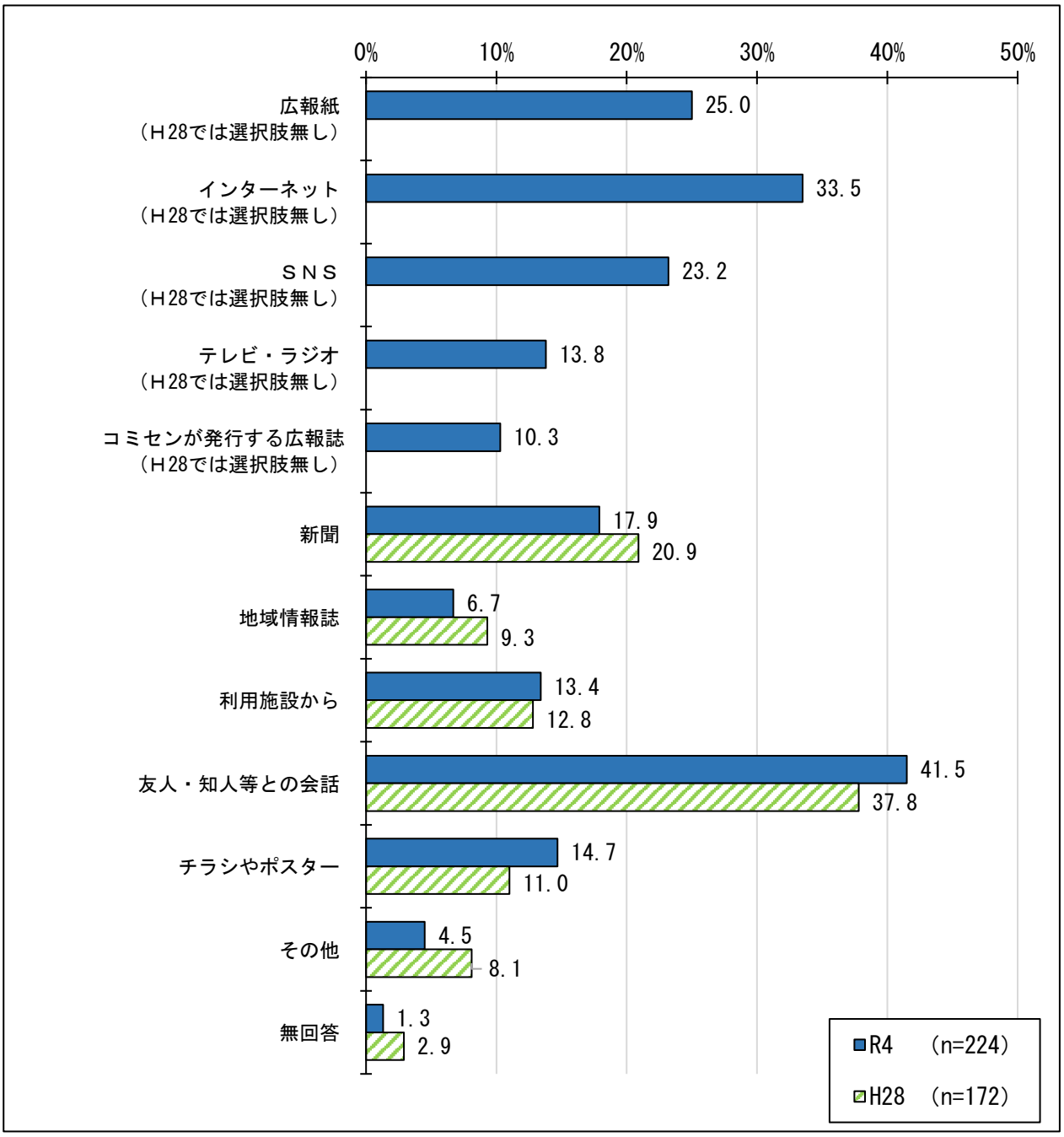


（５）　生涯学習に関する情報の入手方法

問６　あなたは、生涯学習に関する情報を、主にどのような手段で入手していますか（していましたか）。※３つまで選択

前回調査と同様に「友人・知人等との会話」（４１．５%）が最も多く、次いで「インターネット」（３３．５%）、「広報紙」（２５．０%）の順となりました。

図６　生涯学習情報の入手方法（複数回答）

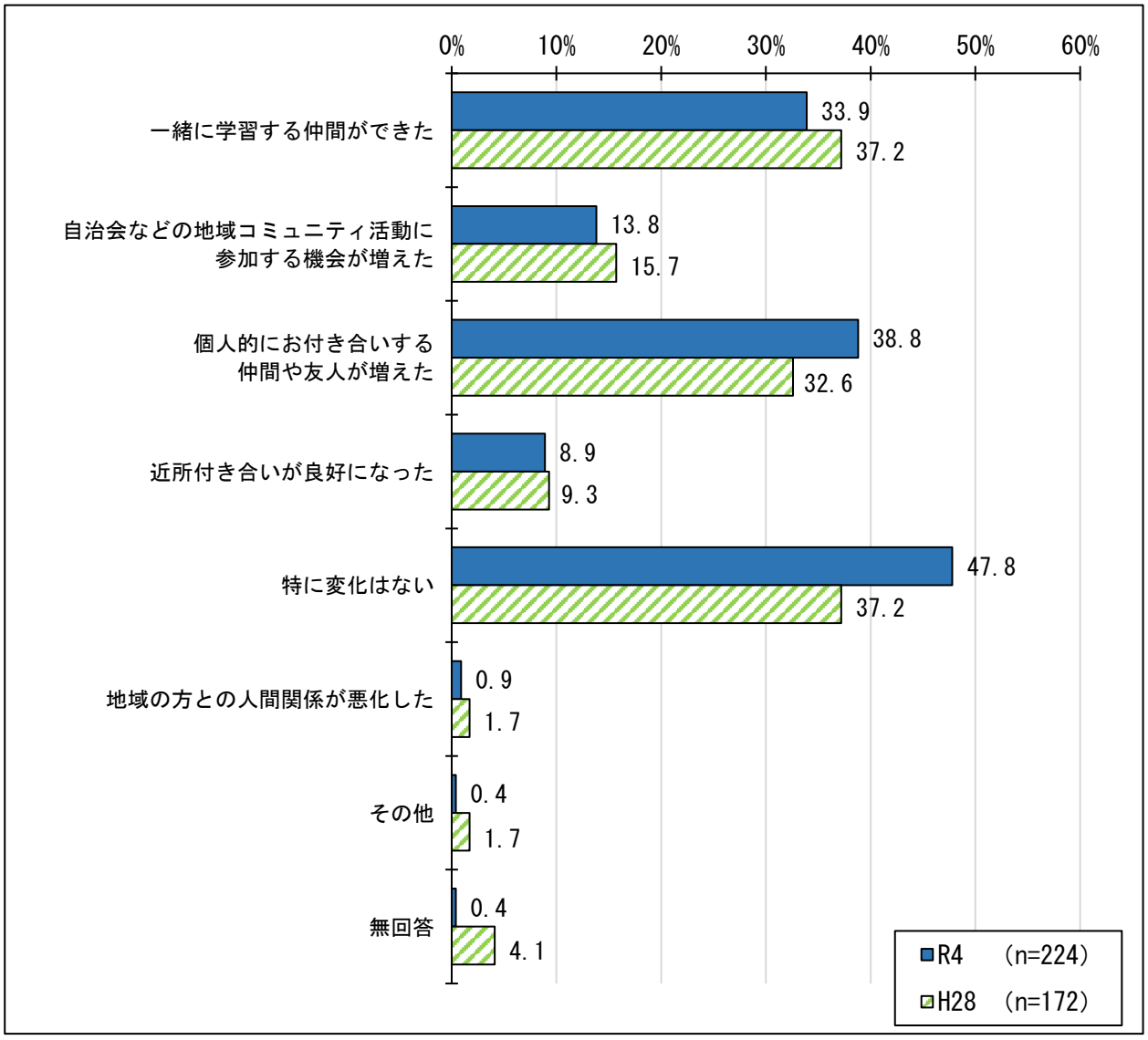


（６）　生涯学習を通じての人付き合いの変化について

問７　あなたは、生涯学習活動を通じて、地域等での人付き合いに変化がありましたか。
※該当するものすべて

「特に変化はない」（４７．８%）が前回調査と同様に最も多くなり、次いで「個人的にお付き合いする仲間や友人が増えた」（３８．８%）、「一緒に学習する仲間ができた」（３３．９%）の順となりました。

図７　生涯学習活動を通じての人付き合いの変化（複数回答）



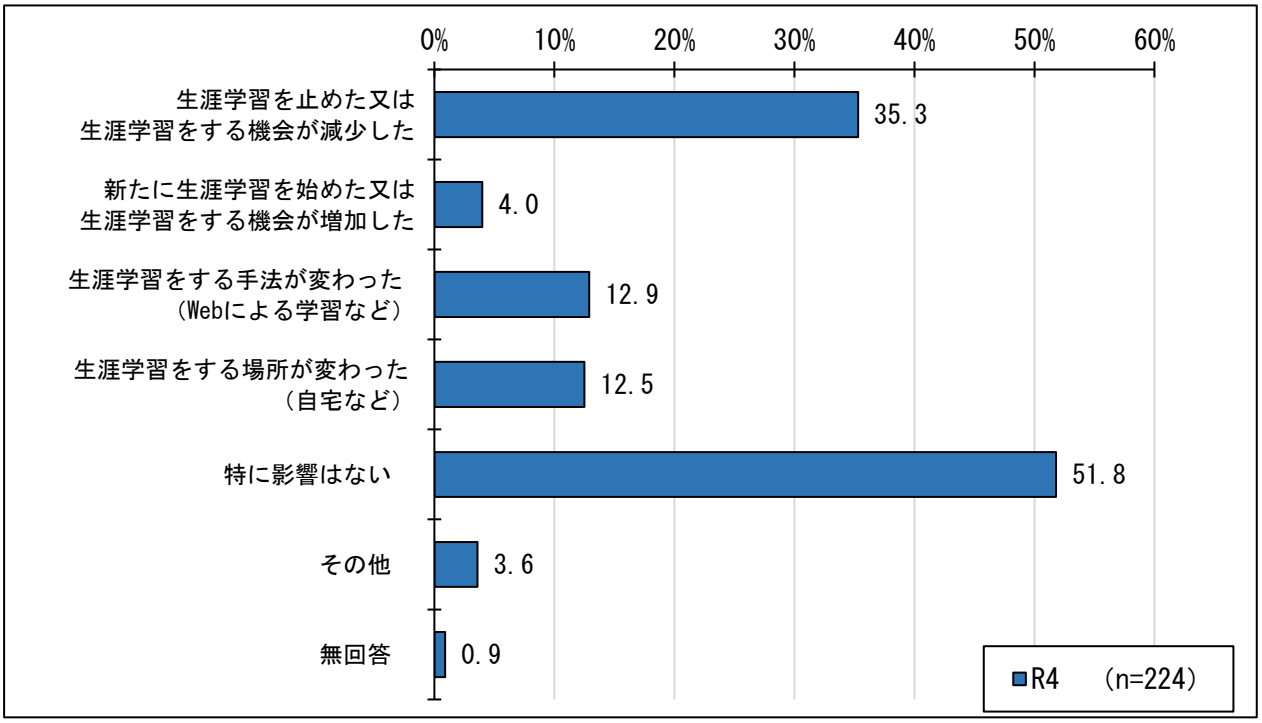
（７）　新型コロナウイルス感染症の影響について

問８　生涯学習を行う上で、昨今の新型コロナウイルス感染症の影響はありましたか。
※該当するものすべて

「特に影響がない」が５１．８％と過半数を占めており、次いで「生涯学習を止めた又は生涯学習をする機会が減少した」（３５．３％）、「生涯学習をする手法が変わった（Webによる学習など）」（１２．９％）、「生涯学習をする場所が変わった（自宅など）」（１２．５％）の順となりました。

一方で、「新たに生涯学習を始めた又は生涯学習をする機会が増加した」は４．０％と低いものの、一定程度存在しています。

図８　生涯学習を行う上での新型コロナウイルス感染症の影響（複数回答）

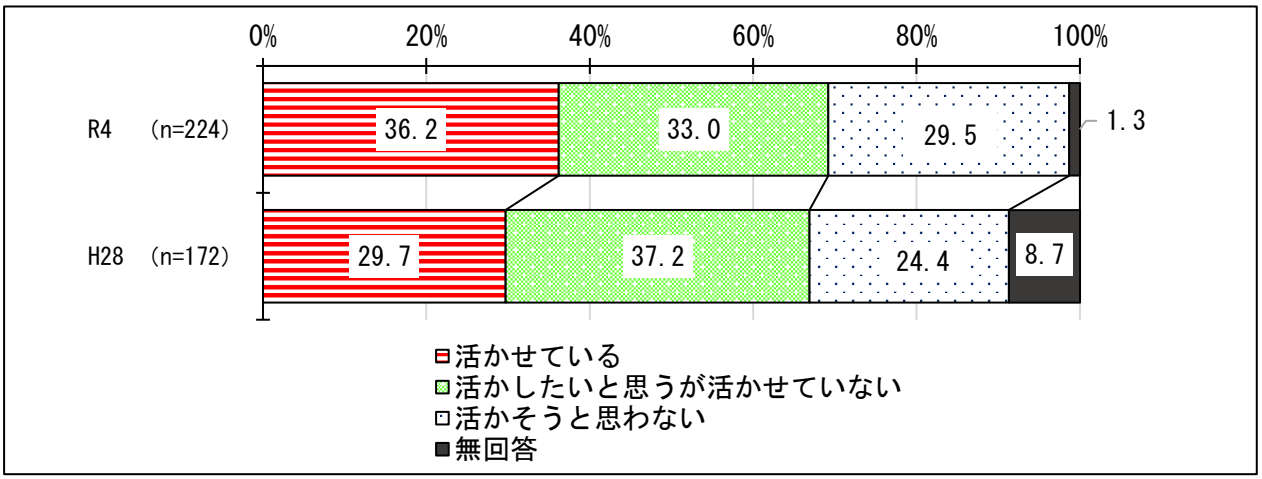


（８）　地域や社会での生涯学習の活用状況

問９　あなたは、生涯学習で学んだことを地域や社会で活かせていますか。※１つ選択

「活かせている」と「活かしたいと思うが活かせていない」と回答した人の割合は約７割（６９．２%）と多数を占めており、前回調査と比較して、２．３ポイント増加しました。

図９　生涯学習の活用状況



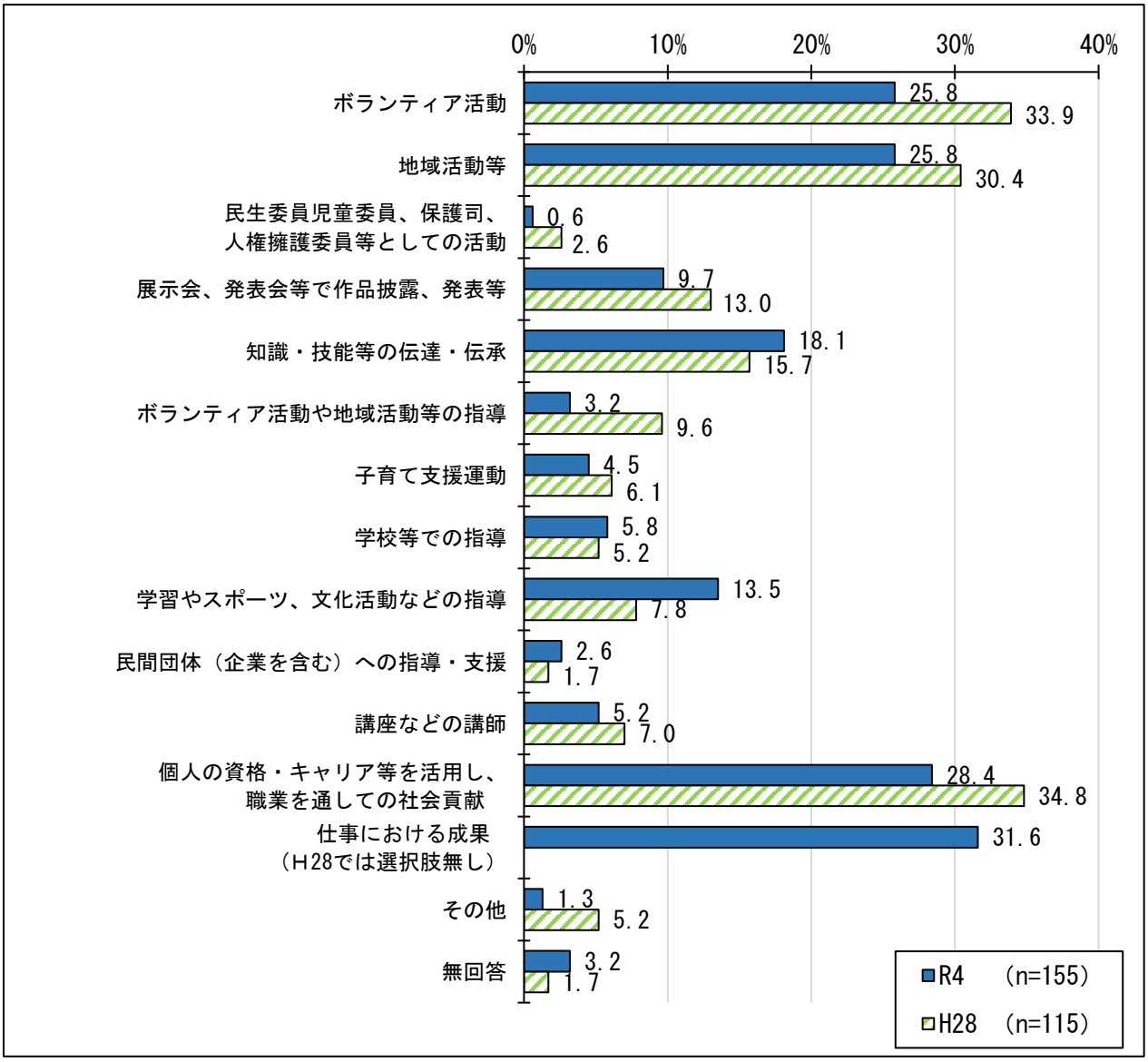
（９）　地域や社会における生涯学習の活用の仕方

※問１０は、問９で「１.活かせている」又は「２.活かしたいと思うが活かせていない」を選択した方のみが回答しています。

問１０　あなたは、生涯学習で学んだことを地域や社会で主にどのように活かせている、又は活かしたいと考えますか。※３つまで選択

前回調査では選択肢になかった「仕事における成果」（３１．６%）が最も多く、次いで「個人の資格・キャリア等を活用し、職業を通しての社会貢献」（２８．４%）、「ボランティア活動」と「地域活動等」（２５．８%）の順となりました。

図１０　地域や社会における生涯学習の活用の仕方（複数回答）



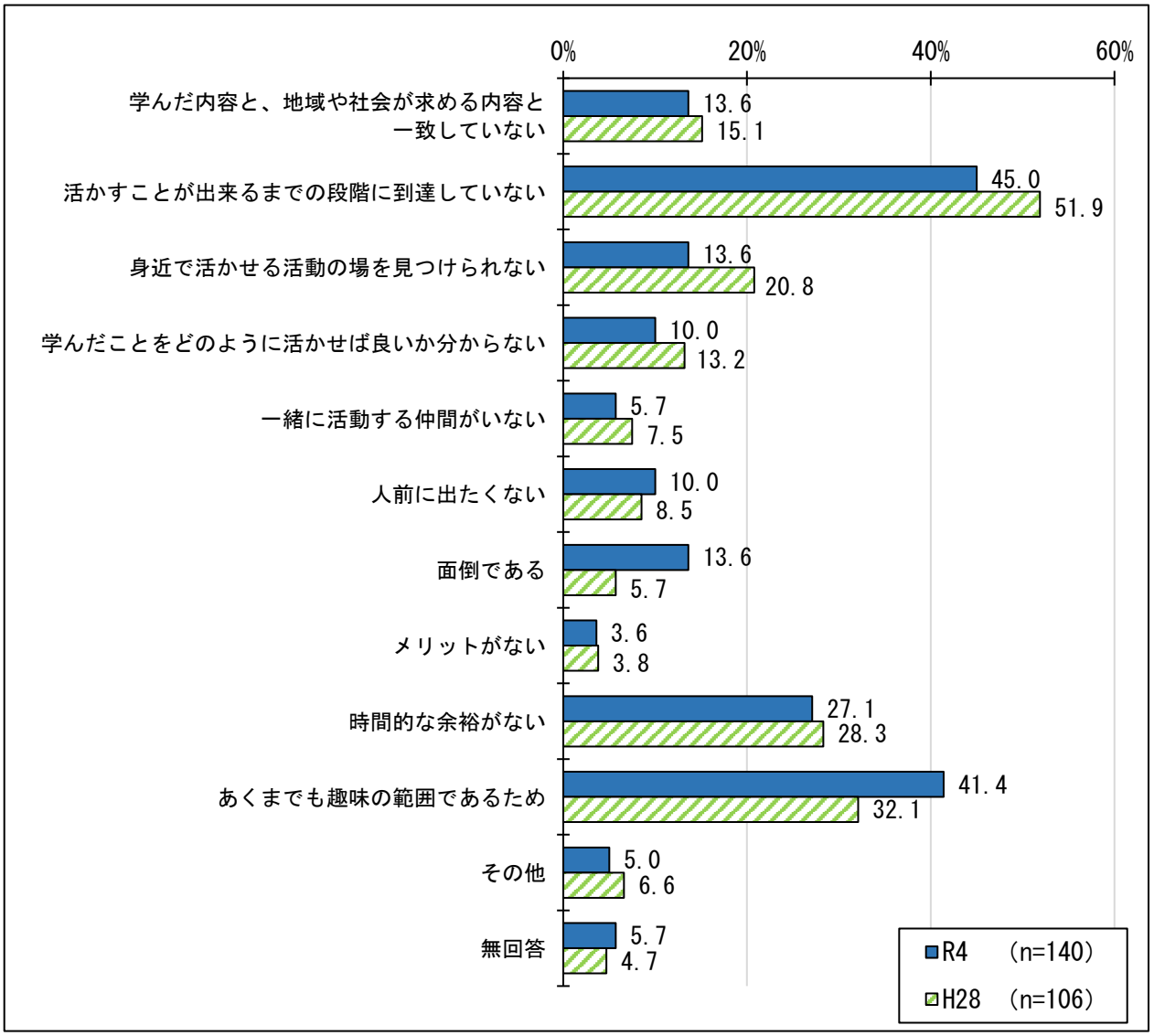
（１０）地域や社会において生涯学習を活かせていない理由

※問１１は、問９で「２.活かしたいと思うが活かせていない」又は「３.活かそうと思わない」を選択した方のみが回答しています。

問１１　生涯学習で学んだことを地域や社会で、活かしたいと思うが活かせていない、又は、活かそうと思わない理由は何ですか。※３つまで選択

「活かすことが出来るまでの段階に到達していない」（４５．０%）が最も多く、次いで「あくまで趣味の範囲であるため」（４１．４%）、「時間的な余裕がない」（２７．１%）、「学んだ内容と、地域や社会が求める内容と一致していない」、「身近で活かせる活動の場を見つけられない」と「面倒である」（１３．６%）の順となりました。

図１１　生涯学習で学んだことを活かせていない、活かそうと思わない理由（複数回答）

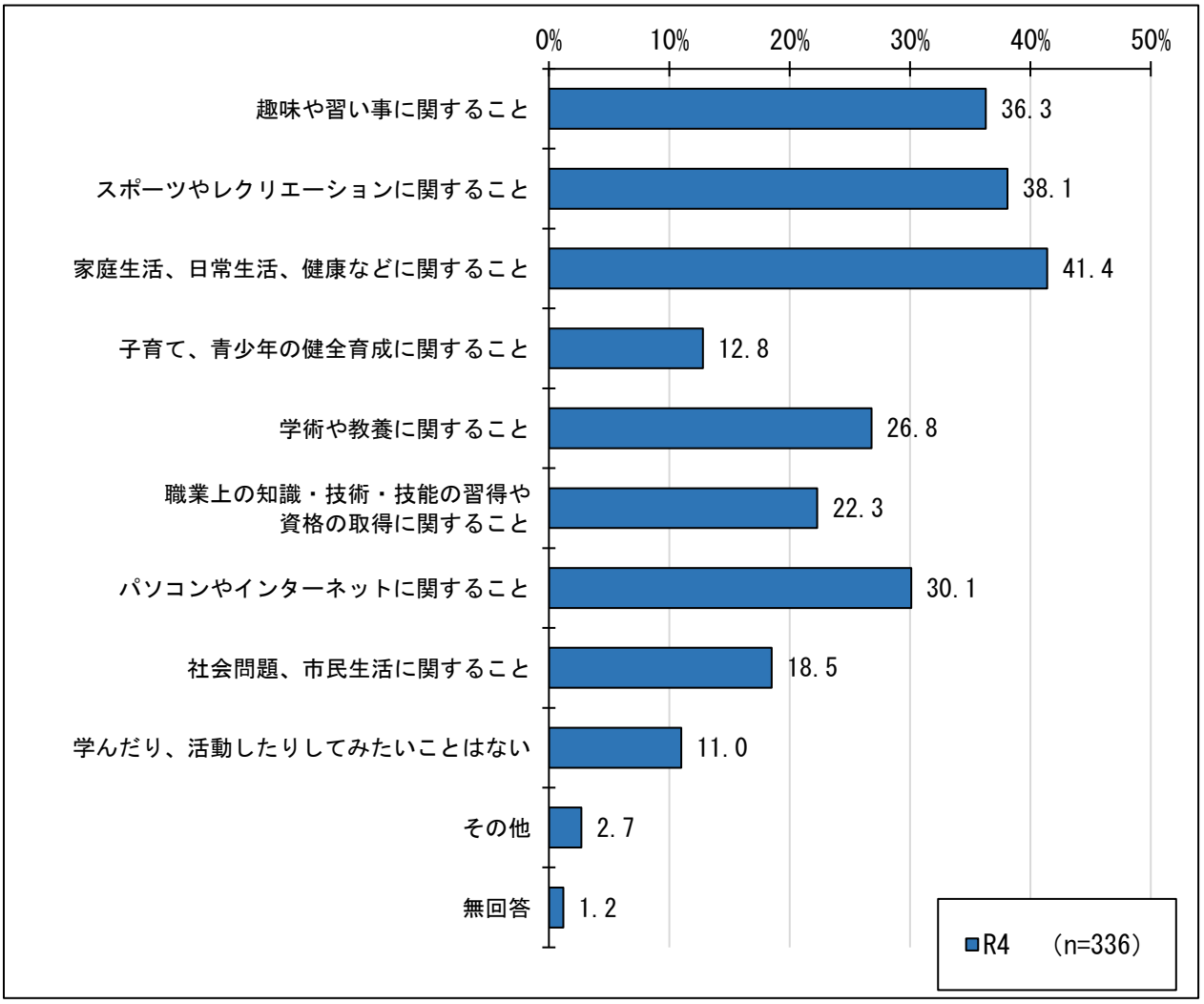


（１１）今後学習したい内容、活動したい内容

問１２　あなたが今後、学んだり活動してみたいことは何ですか。※該当するものすべて

「家庭生活、日常生活、健康などに関すること」（４１．４%）が最も多く、次いで「スポーツやレクリエーションに関すること」（３８．１%）、「趣味や習い事に関すること」（３６．３%）の順となり、自分の楽しみや健康等のために学びたいと考えている人の割合が高くなりました。

図１２　今後学習や活動したい生涯学習の内容（複数回答）

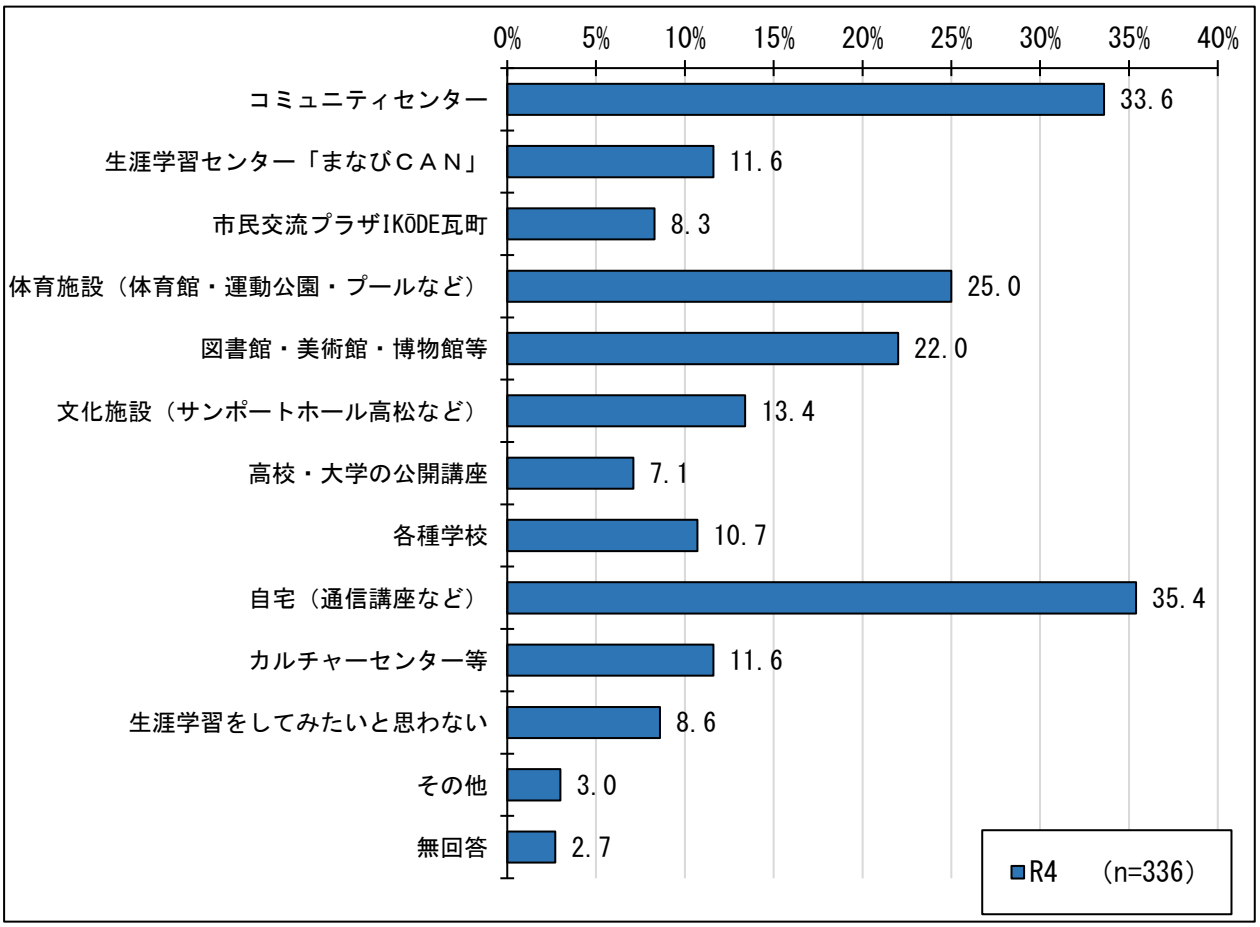


（１２）今後生涯学習を行いたい場所について

問１３　あなたは今後、どこで生涯学習をしてみたいですか。※３つまで選択

「自宅（通信講座など）」（３５．４%）が最も多く、次いで「コミュニティセンター」（３３．６%）、「体育施設（体育館・運動公園・プールなど）」（２５．０%）、「図書館・美術館・博物館等」（２２．０%）の順となりました。

図１３　今後生涯学習を行いたい場所（複数回答）



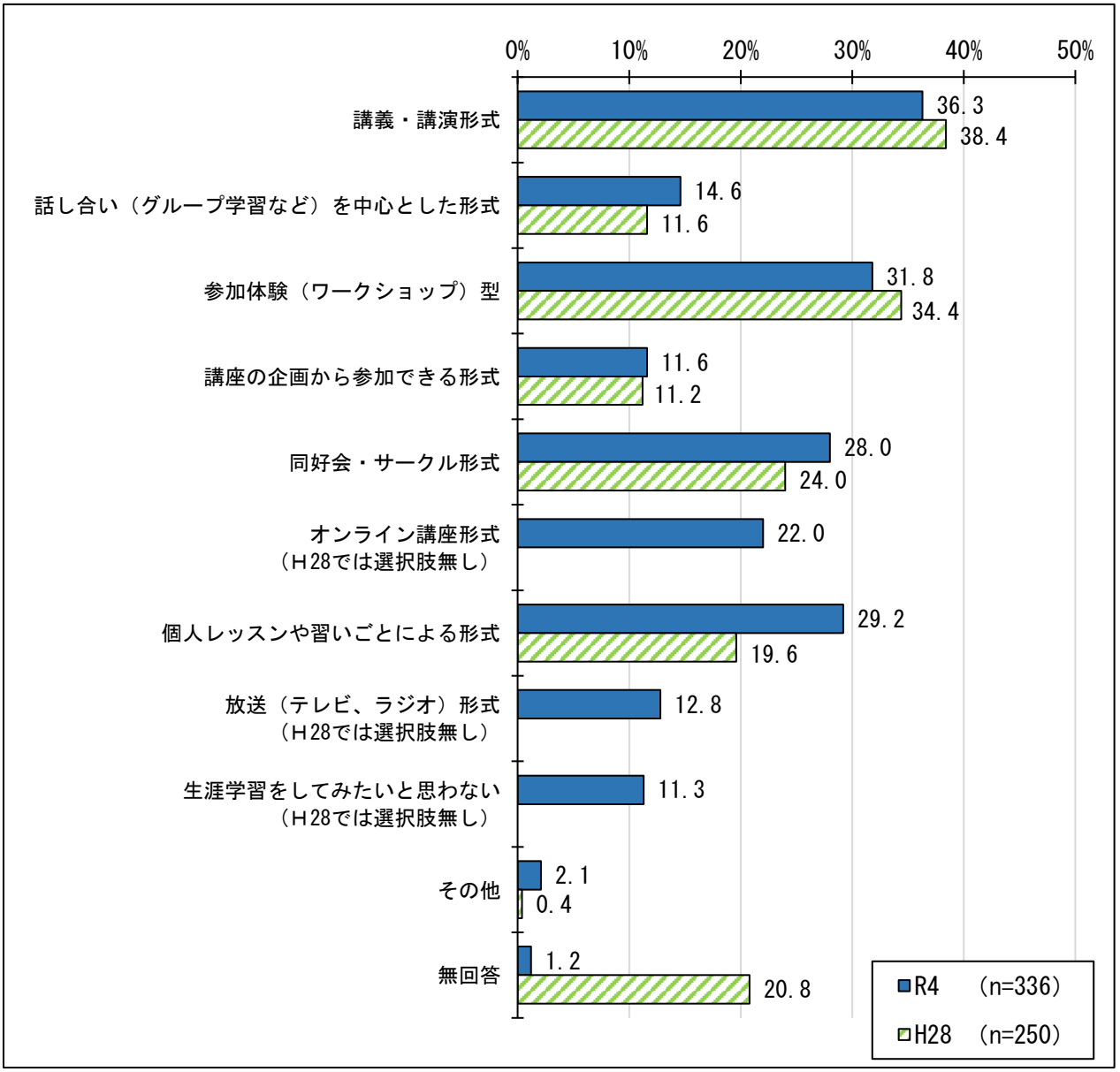
※前回調査の同内容の設問は「単数回答」としていたため、比較を行っていない。

（１３）今後の生涯学習の方法

問１４　あなたは今後、どのような方法で生涯学習をしてみたいですか。
※該当するものすべて

「講義・講演形式」（３６．３%）が最も多く、次いで「参加体験（ワークショップ）型」（３１．８%）、「個人レッスンや習いごとによる形式」（２９．２%）、「同好会・サークル形式」（２８．０%）の順となり、前回調査とほぼ同じ傾向を示しています。

図１４　今後の生涯学習の方法（複数回答）



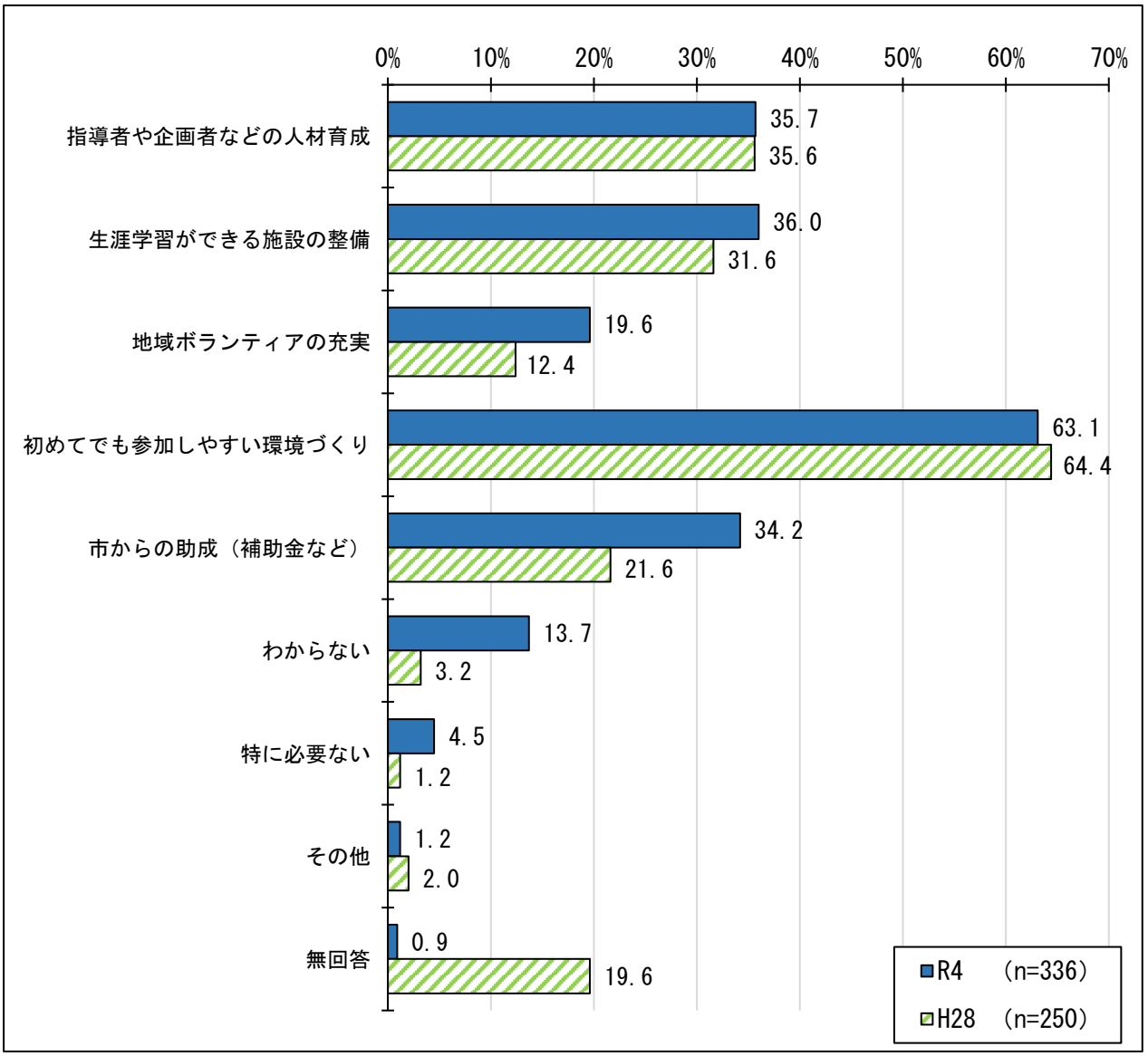
（１４）生涯学習を通して高松市や地域の活性化のために必要なこと

問１５　生涯学習を通して、高松市や地域をより活性化させるために必要と感じることは何ですか。※該当するものすべて

前回調査と同様に、「初めてでも参加しやすい環境づくり」（６３．１%）が最も多い結果となりました。次いで、「生涯学習ができる施設の整備」（３６．０%）、「指導者や企画者などの人材育成」（３５．７%）、「市からの助成（補助金など）」（３４．２%）の順となりました。

前回調査と比較すると、「地域ボランティアの充実」は７．２ポイント増加、「市からの助成（補助金など）」は、１２．６ポイント増加しています。

図１５　生涯学習を通して高松市や地域の活性化のために必要なこと（複数回答）

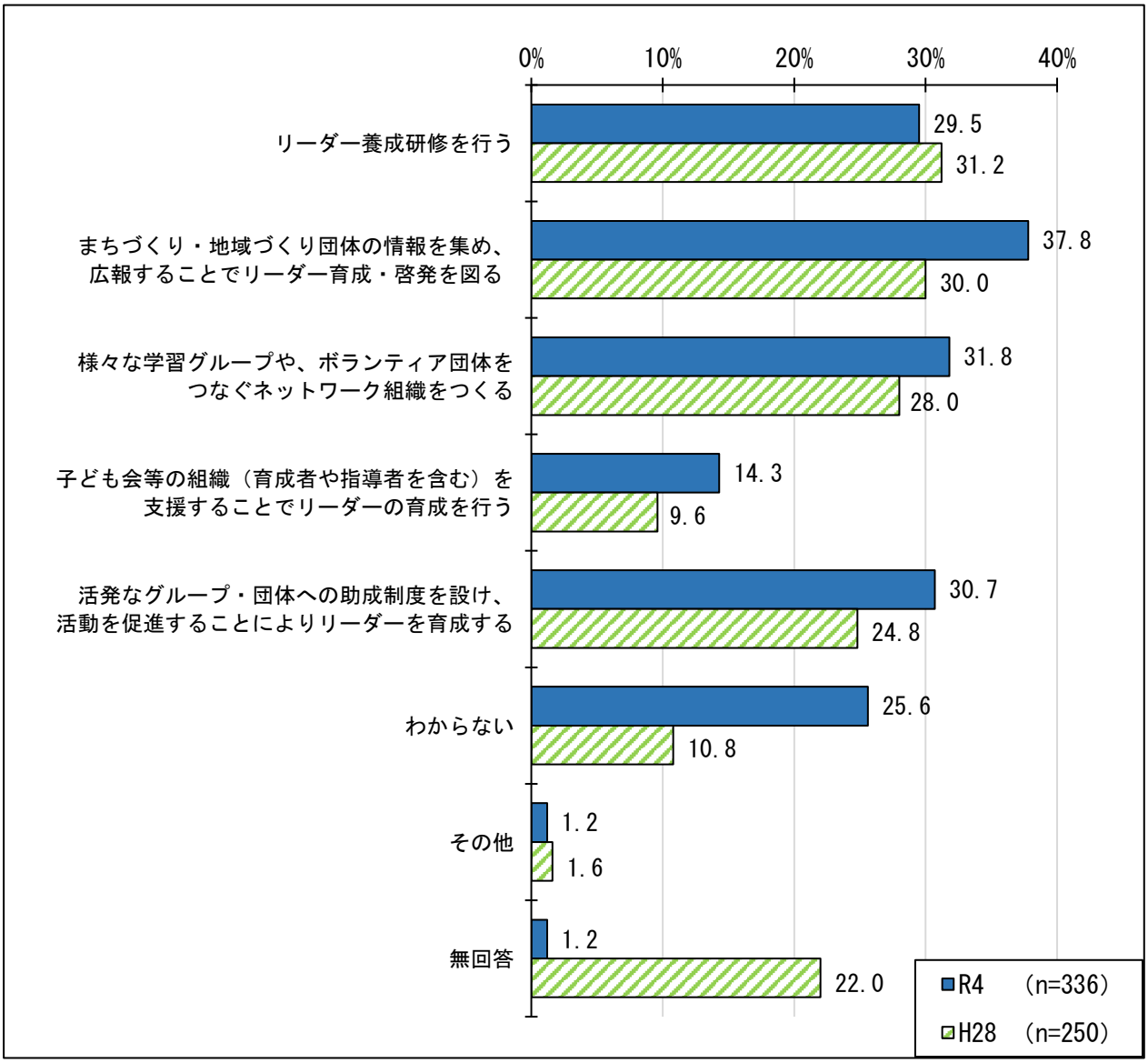


（１５）生涯学習を通して指導者を育成するために必要な取組

問１６　生涯学習を通して地域のリーダーや指導者を育成していくために必要な取組は何だと考えますか。※該当するものすべて

「まちづくり・地域づくり団体の情報を集め、広報することでリーダー育成・啓発を図る」（３７．８%）が最も多い結果となりました。また、「様々な学習グループや、ボランティア団体をつなぐネットワーク組織をつくる」（３１．８%）や「活発なグループ・団体への助成制度を設け、活動を促進することによりリーダーを育成する」（３０．７%）、さらには、「リーダー養成研修を行う」（２９．５%）という回答が大きな差はなく、それぞれ高い数値となりました。

図１６　生涯学習を通して指導者を育成するために必要な取組（複数回答）

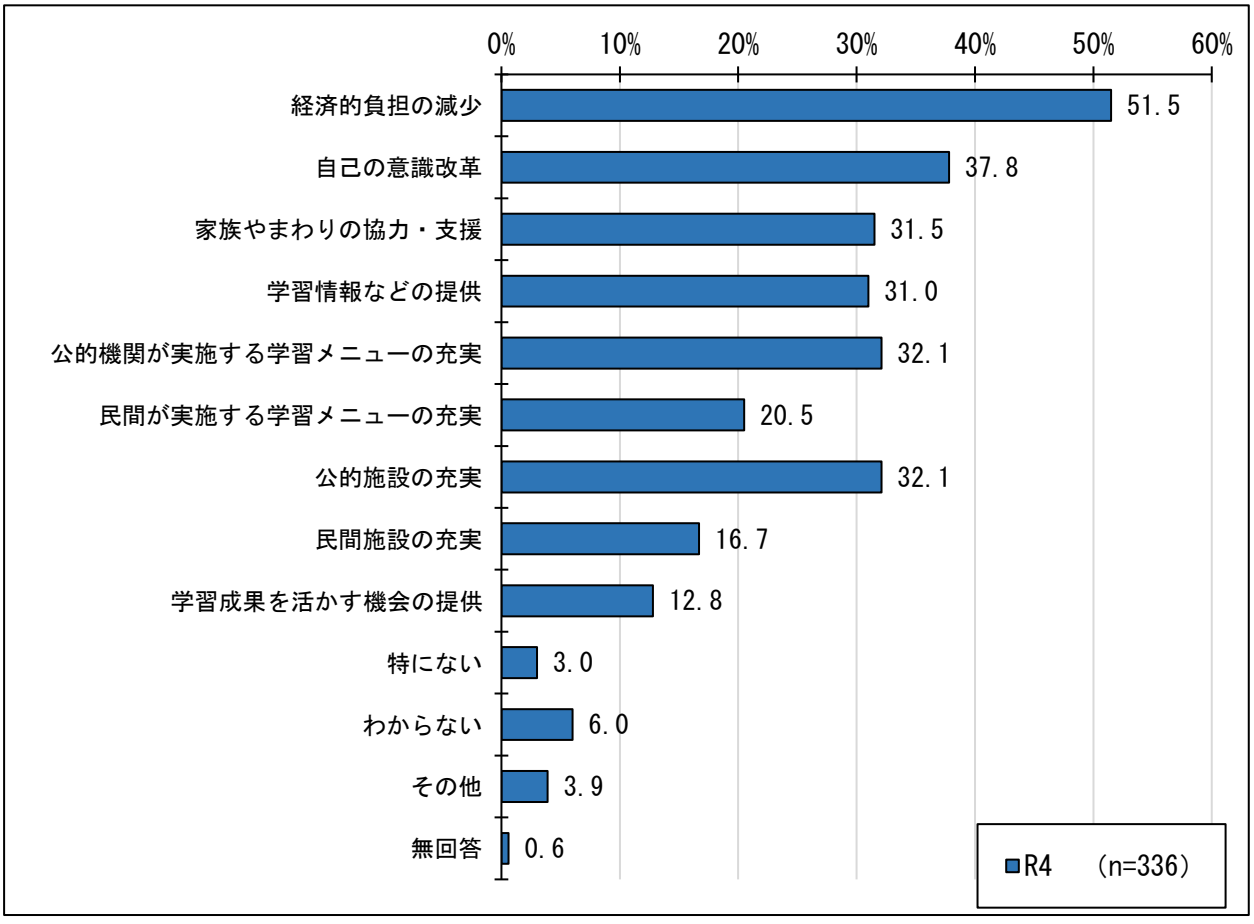


（１６）生涯学習の充実等のために必要なこと

問１７　あなたは、生涯学習の更なる充実、又は生涯学習を始めるきっかけには、何が必要と考えていますか。※該当するものすべて

「経済的負担の減少」（５１．５％）が最も多く、次いで「自己の意識改革」（３７．８％）となりました。また、「公的機関が実施する学習メニューの充実」と「公的施設の充実」（３２．１％）、「家族やまわりの協力・支援」（３１．５％）、「学習情報などの提供」（３１．０％）という回答が大きな差はなく、それぞれ高い数値となりました。

図１７　生涯学習の充実又は開始のために必要なこと（複数回答）

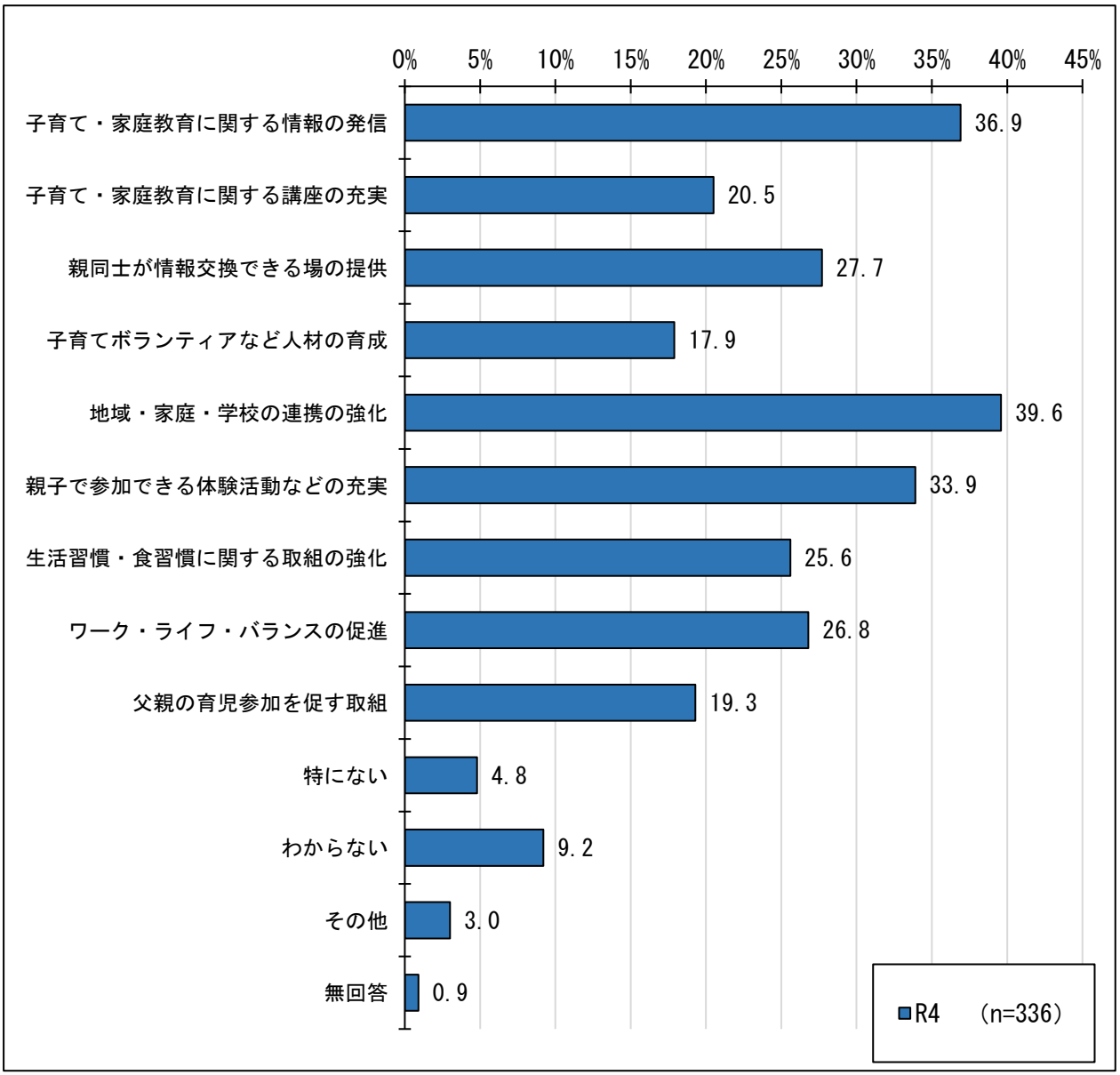


（１７）家庭教育に関する施策に必要な取組

問１８　あなたは、家庭教育に関する施策について、どのような取組に力を入れるべきだと考えますか。※該当するものすべて

「地域・家庭・学校の連携の強化」（３９．６%）が最も多く、次いで「子育て・家庭教育に関する情報の発信」（３６．９%）、「親子で参加できる体験活動などの充実」（３３．９%）、「親同士が情報交換できる場の提供」（２７．７%）の順となりました。

図１８　家庭教育に関する施策に必要な取組（複数回答）

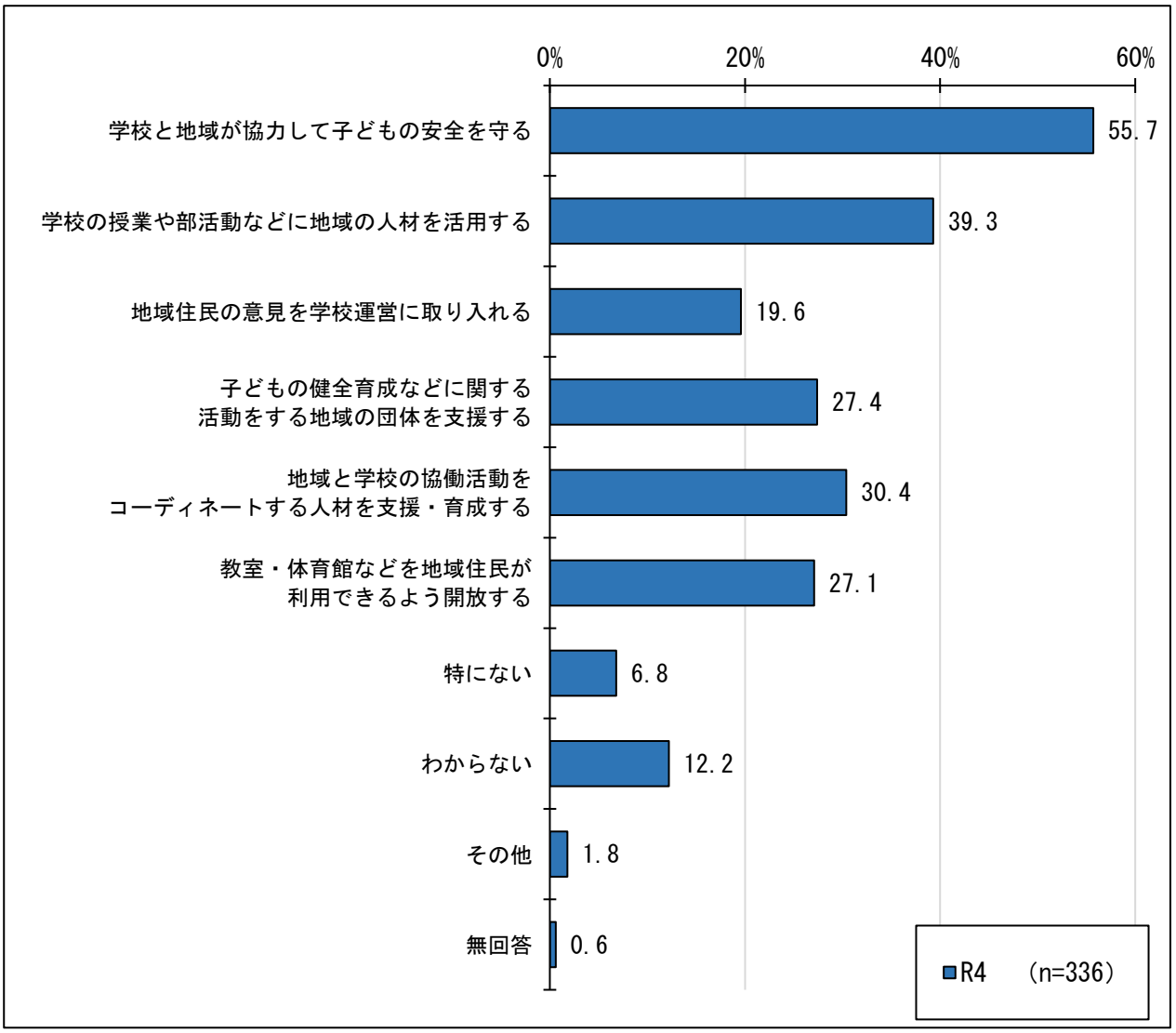


（１８）学校・家庭・地域の連携を推進するために必要な取組

問１９　あなたは、学校と家庭及び地域の連携を推進することについて、どのような取組にカを入れるべきだと考えますか。※該当するものすべて

「学校と地域が協力して子どもの安全を守る」（５５．７%）が最も多く、次いで「学校の授業や部活動などに地域の人材を活用する」（３９．３%）、「地域と学校の協働活動をコーディネートする人材を支援・育成する」（３０．４%）、「子どもの健全育成などに関する活動する地域の団体を支援する」（２７．４%）、「教室・体育館などを地域住民が利用できるように開放する」（２７．１%）の順となりました。

図１９　学校・家庭・地域の連携推進に必要な取組（複数回答）

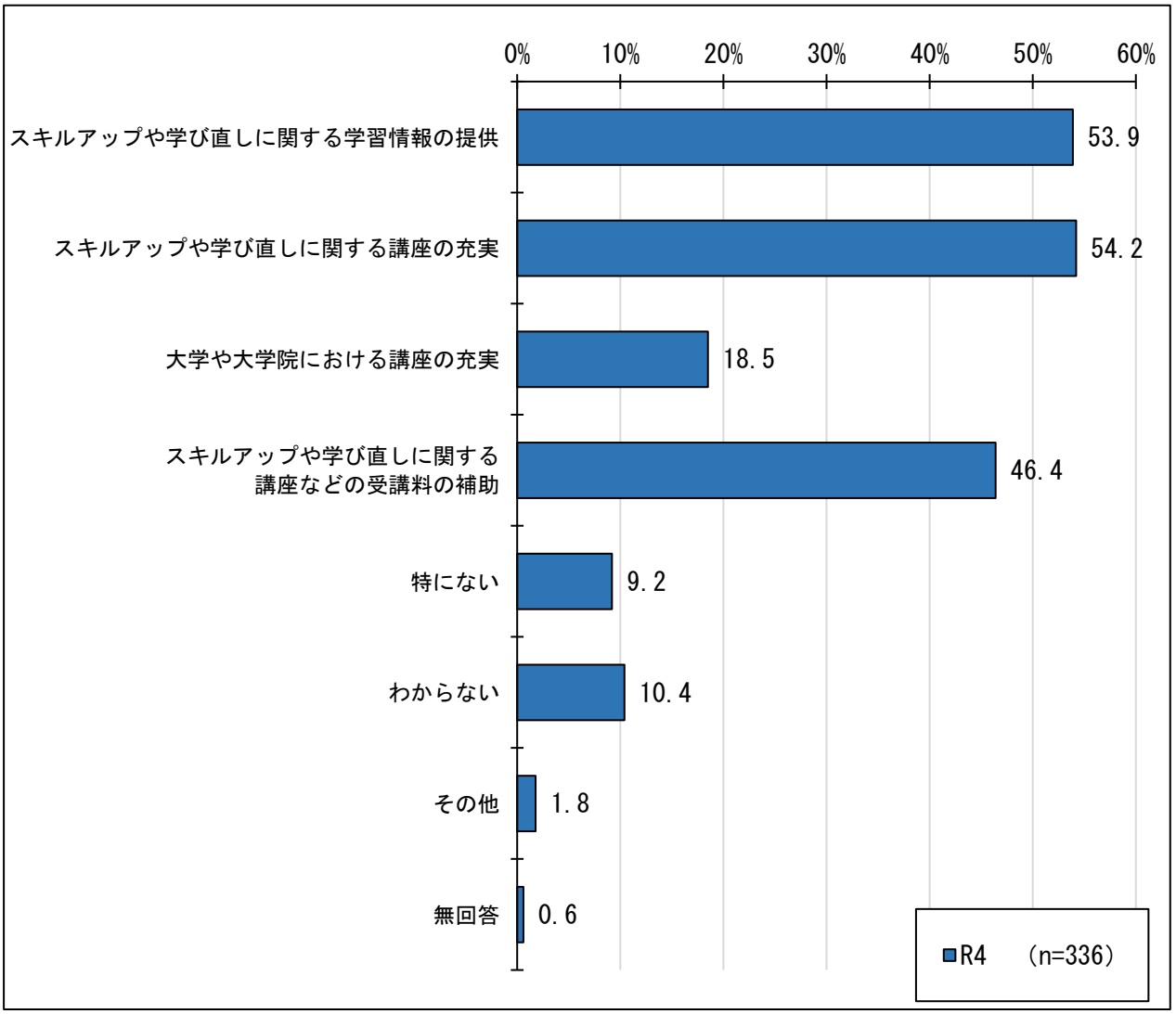


（１９）社会人や就労希望者のスキルアップ等の推進に必要な取組

問２０　あなたは、社会人や就労希望者のスキルアップや学び直しを推進することについて、どのような取組に力を入れるべきだと考えますか。※該当するものすべて

「スキルアップや学び直しに関する講座の充実」（５４．２%）が最も多く、次いで「スキルアップや学び直しに関する学習情報の提供」（５３．９%）となり、これらの２項目が過半数を占めています。次いで「スキルアップや学び直しに関する講座などの受講料の補助」（４６．４%）が高い数値となりました。

図２０　社会人や就労希望者のスキルアップや学び直しの推進に必要な取組（複数回答）



３　自由意見

問２１　生涯学習について、ご意見・ご要望等がありましたら、回答用紙へご自由にご記入ください。

高松市の生涯学習に対する意見・要望について自由記入方式で尋ねたところ、３９件の意見が寄せられました。いただいた意見を「生涯学習に関すること」（７件）、「情報発信に関すること」（５件）、「講座等の充実に関すること」（７件）、「交通の利便性に関すること」（５件）、「学び直しに関すること」（３件）、「人材の活用に関すること」（２件）、「その他の意見」（１０件）の７つに分類した上で、主な意見を紹介します。

※（）内は分類ごとの意見数

（１）生涯学習に関すること

・生涯学習のオンライン化を進めてほしい。オンライン・オフラインを両立できるようになればいい。

・生涯学習は自らが主体的に実施するものであって、行政は選択肢を増やすなど間接的に関わってほしい。

（２）情報発信に関すること

・情報を知っているか知らないかで生涯学習への関わりに差が出てくる。どのように情報を発信するかは重要である。

・インスタグラム「イクゼマナビカン」を知ることができて良かった。

（３）講座等の充実に関すること

・気軽に受講できる講座を充実させてほしい。

・市が提供する生涯学習メニューの内容を見直し、これからの時代に必要なニーズを常に意識した内容(生涯現役で働くために必要な知識の習得)のメニューを提供していただきたい。

・音楽・楽器・アート・美術等は多くの方が興味を持っているにも関わらず、手が出しにくいので、格安の初心者教室等があれば良い。

（４）交通の利便性の向上に関すること

・参加しやすいよう、駐車場があることや公共交通機関の充実が必要である。

・交通手段もなく、コミュニティセンターも遠いため、行くのが難しい。バス等があれば参加しやすくなる。

（５）学び直しに関すること

・勤労世代を中心とした学び直しの機会を提供していくことが必要である。

・本当に学んで欲しい人や、困っている人は、学びの場へ行けない人が多いと思う。若年層に向けた情報の在り方、手の差し伸べ方を検討いただき、一人一人に合った学習の場を考えていただきたい。

（６）人材の活用に関すること

・退職後の生きがいとして有効なので、地域からの人材（指導者）の掘り起こしに取り組んでほしい。

・ボランティアができる人に、それぞれの特技など手伝いをお願いできれば良い。

（７）その他

・これまでの経験や学んだことを、誰かのために提供し、感謝される仕組みが必要だと思う。

・地元の中小企業と行政が連携し、取組を進めてほしい。

・人間関係が難しい。

・アンケート調査を今後の市の取組に生かしてほしい。

第３　調査結果のまとめ

1　生涯学習への参加と動機づけ

問１「あなたにとって生涯学習は必要か」の質問に対し、「必要である」又は「どちらかといえば必要である」と回答した人は合わせて８８．４%で、市民の生涯学習に対するニーズは高いことが分かります。

しかしながら、問２「これまでに生涯学習を経験したことがあるか」の質問に対し、「現在している」人は３５．１%で、前回調査時の３０．７%から４．４ポイント増加している一方で、「過去にしたことはあるが、現在していない」人も、３１．５%で、前回調査時の２３．２%から８．３ポイント増加しています。

このことの一因として、問８「生涯学習を行う上で、昨今の新型コロナウイルス感染症の影響はあるか」の質問に対し、３５．３%の人が「生涯学習を止めた又は機会が減少した」と回答していることを踏まえると、新型コロナウイルス感染症の影響があったものと考えられます。

また、問１７「生涯学習の更なる充実、又は生涯学習を始めるきっかけに必要なことは何か」の質問に対し、最も多かったのは「経済的負担の減少」と回答した人で５１．５%、次いで「自己の意識の改革」で３７．８%となりました。

以上を踏まえ、「ポストコロナを視野に入れた新しい学びへの転換」や、「誰でも気軽に生涯学習に参加できる仕組みづくり」を推進することが今後益々重要になってくるものと考えられます。

2　生涯学習の活動場所や方法

問５「主にどこで生涯学習をしているか」の質問に対し、最も多かったのは「自宅」と回答した人で４２．４%となっており、前回調査時の２９．１%から大幅に増加しています。

このことの一因として、新型コロナウイルス感染症の影響により、外出を控えるなど自宅で過ごす時間が増えたことが考えられます。

また、問１３「今後、どこで生涯学習をしてみたいか」の質問に対し、「自宅」と回答した人が最も多く３５．４%いたことや、問１４「今後、どのような方法で生涯学習をしてみたいか」の質問に対し、最も多かったのは「講義・講演形式」で３６．３%、次いで「参加体験（ワークショップ）」で３１．８%、そのほか「オンライン講座形式」も２２%いたことなども踏まえ、ＩＣＴなどを活用した生涯学習の手法も併用しながら、どこにいてもどんな手法でも生涯学習ができる環境づくりが重要になってくるものと考えられます。

3　市民が情報を得やすい環境づくり

問６「生涯学習に関する情報を、主にどのような手段で入手しているか」の質問に対し、最も多かったのは「友人・知人等の会話」と回答した人で４１．５%、次いで「インターネット」で３３．５%、以下、「広報紙」、「ＳＮＳ」と続いています。

口コミなど、人と人同士のつながりで情報を入手する人が多い傾向は前回の調査から変更ありませんでした。

また、昨今の情報化社会の進展に伴い、「インターネット」や「ＳＮＳ」から情報を入手する人も多数いる一方で、一定程度「広報紙」などの紙媒体から情報を得ている人もいます。

以上を踏まえ、引き続き、様々な広報媒体を用いながら、市民に分かりやすい内容で積極的に情報発信をしていくことが重要です。

4　家庭教育に関する施策の推進について

健やかな子どもの成長のためには、家庭における教育は欠かすことができないものです。

本市においても、家庭における教育力の向上を目的として、多くの保護者が集まる機会を活用し、専門家が家庭教育についてのアドバイスなどを行う講座の開催や、自分の都合に合わせて子育てについてのちょっとしたヒントを得ることができる、家庭教育に関するコラムの発信など各種家庭教育施策を実施しています。

問１８「家庭教育に関する施策についてどのような取組に力を入れるべきか」の質問に対し、最も多かったのは「地域・家庭・学校の連携の強化」と回答した人で３９．６%、次いで「子育て・家庭教育に関する情報の発信」で３６．９%となりました。

このことは、社会情勢が変化し、子どもを取り巻く課題が多様化・複雑化する中にあって、家庭のみで子どもを育てることは困難で、社会全体で子どもを育てていくことが求められていることを示す結果となりました。

また、家庭の教育力向上のため、引き続き、様々な広報媒体を活用し、多様な視点から家庭教育に関する情報発信に取り組んでいく必要があります。

5　学校・家庭・地域の連携強化について

問１９「学校と家庭及び地域の連携を推進することについて、どのような取組に力を入れるべきか」の質問に対し、最も多かったのは「学校と地域が協力して子どもの安全を守る」と回答した人で５５．７%、次いで「学校の授業や部活動などに地域の人材を活用する」で３９．３%、「地域と学校の協働活動をコーディネートする人材を支援・育成する」で３０．４%となりました。

学校・家庭・地域の連携を推進することで、「健全な子どもの育成」につながると考えて

いる人は多く、社会全体で子どもを育てていくことの重要性を再確認できる結果となりました。

また、地域と学校との協働活動を効果的に推進するためのコーディネーターの養成等についても、力を入れるべきと考える人も多く、今後はコーディネーターの活動を支援しながら、「学校を核とした地域づくり」を更に推進していく必要があります。

6　スキルアップや学び直しの推進について

人生１００年時代が到来し、市民一人一人が、生涯を通じて心豊かに生きがいのある人生を送るために、年齢に関係なくスキルアップしたい人や学び直しを希望する人は今後益々増加するものと考えられます。

問２０「社会人や就労希望者のスキルアップや学び直しを推進することについて、どのような取組に力を入れるべきか」の質問に対し、最も多かったのは「スキルアップや学び直しに関する講座の充実」と回答した人で５４．２%、次いで「スキルアップや学び直しに関する学習情報の提供」で５３．９%となりました。

今後は、「学び直し」に関する講座の充実、効果的な情報発信を積極的に実施していくことが重要になってくるものと考えられます。